

『今日よりは明日へ』ご出版にあたって

赤十字は、人道的視点から中立の立場で、傷ついた兵士達を敵味方の区別なく援けることを使命として、一八六三年に誕生しています。日中戦争から第二次世界大戦にかけて、赤十字の従軍看護婦として病院船や野戦病院での使命を忠実に果たされたのが若き日の蜂須賀さんであり、その時の得難い体験は、この御著書に余すところなく記録されています。そして蜂須賀さんは戦中戦後に巨るご功績によって、今年の夏、日本赤十字社名誉総裁であられる皇后陛下が、日本赤十字社の殉職救護員慰霊碑に参拝された折りに、直接親しくお言葉を交わされる機会を得られました。

その蜂須賀さんが、このたび米寿を迎えられました。昭和十四年八月一日に召集令状を受け取られてから、実に六十七年の歳月が過ぎていきます。国民の間ではこのところ戦争の記憶が急速に薄れつつあります。それを呼び覚まそうとするように、蜂須賀さんはご自身の活動を回顧する本を出版することで、赤十字とともに歩んだ長い人生のひとつの節目とされました。後進にとつて誠に誇らしく、有り難いことでもあります。

戦後になって日赤の戦時の救護活動は、軍国主義に加担したものと一部から誤解され、多くの従軍看護婦がづらい思いをされました。赤十字は、個々の戦争の正邪を云々する立場にはありませんが、千百二十人に及ぶ犠牲を払ってまでの従軍看護婦の献身的な働きがなかったならば、戦争がより悲惨なものとなったことだけは明らかであります。

蜂須賀さんの著書が、世界各地で未だに続いている戦争の現実を多くの人が今日的な問題として直視し、その犠牲者への人道的関心を高めるきっかけを提供してくださることを期待したいと思います。

平成十八年十月

日本赤十字社社長 近衛忠輝

第一章 忘れられぬ戦争

生い立ち 16

前橋赤十字病院救護看護婦養成所 20

病院船 27

再度応召 ビルマ兵站病院勤務 36

第二章 看護の向上を目指して

戦後、そして前橋赤十字病院復帰 74

埼玉県庁 84

国立小倉病院付属高等看護学院 89

自衛隊・自衛隊中央病院・衛生学校 96

中野総合病院 104

関東労災病院 114

千葉県がんセンター 120

聖マリアンナ医科大学病院 126

戦後、共に歩んできた日本看護協会 146

第三章 あたたかなふれあい

定年後 160

勲五等瑞宝章 166

阿佐ヶ谷の我が家 169

厚生年金保養ホームの思い出 174

若き日の淡い思い出 177

大腸がんの手術 180

第四章 今日よりは明日へ

弥生の季節が永遠に続くことを 212

老いてから、健康でいるために 214

人はパンのみでは生きることが出来ない 223

今日よりは明日へ ー十六の思い(看護師として、人として)ー

225

〔付属〕

蜂須賀つや子の足跡(年表)

229